

令和4年度 活動方針(案)

海上物流を取り巻く状況は、新型コロナウイルス感染症の影響による世界的なコンテナ不足、コンテナ船のスペース不足及び海外主要港での混雑深刻化による海上輸送網の混乱が生じていることから、令和3年の直江津港のコンテナ貨物取扱量は、前年比81%の約27,600TEUとなり、そのうち実入りコンテナにおいては前年比86%の約19,700TEUと2年連続で減少した。また、総貨物取扱量はカーフェリーによる車両航送が無くなつたことにより、国内の移出入量が減少し、前年比96%の約687万トンとなり、5年振りに700万トンを下回った。依然として世界的な海上輸送網の混乱が収束する見通しは立っていないが、引き続き利用企業に対して継続利用を働きかけるほか、他港のみ、または他港を併用する利用企業に対してはリスク分散や地理的優位性の視点などからの直江津港利用の提案を行い、利用促進活動に取り組んでいく。

さらに、荒浜埠頭地区で整備が進む新たな火力発電所は、本年12月の営業運転開始を目指し、3月31日から試運転が開始された。本火力発電所の稼働は、当地域のみならず、国内のエネルギーの安定供給に大きく寄与するものであり、港の重要性が益々高まることが期待される。直江津港のエネルギー港湾としての機能強化を図るため、港湾整備が計画どおり進められることが必要である。また、港湾施設には供用開始後30年以上経過する施設もあり、施設の利用状況や優先度を考慮した確実な老朽化対策を促進するよう国等に働きかけを行う。

直江津港と佐渡の小木港を結ぶ小木直江津航路においては、新型コロナウイルス感染症の拡大地域との往来や旅行・帰省の自粛等の影響により、令和3年の利用者数は約1.8万人に減少した。航路の利用促進に向け、「佐渡島（さど）の金山」の世界文化遺産推薦決定を契機とした一層の誘客及び令和5年度末開業予定の北陸新幹線の敦賀延伸により期待される関西方面からの誘客に関係者と連携して取り組む。

以上を踏まえ、次の事項を重点目標に掲げ、関係者が一致協力して活動を展開する。

重 点 目 標

- 1：直江津港港湾計画の促進
 - エネルギー港湾としての整備促進
 - 港湾施設の維持、拡充
- 2：直江津港の利用促進
 - 地域産業との結びつきを強めたポートセールスの実施
 - 長野県や近隣地域との連携による利用促進
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充
- 4：国の港湾施策並びに次世代資源メタンハイドレート関連施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：小木直江津航路の活性化
- 6：交流拠点としての直江津港の賑わい創出

令和4年度 事業計画(案)

月		会議	行事及び事業
4	上旬	4/5 会計監査、幹事会	
	中旬	4/20 役員会	
	下旬		
5	上旬	5/10 通常総会	
	中旬		
	下旬		
6	上旬		
	中旬		
	下旬		合同委員会
7	上旬		懸垂幕の点張等(7/1~7/31) 7/10 親善ソフトボール大会
	中旬		7/19 直江津港安全祈願祭、在港船員の激励
	下旬		
8	上旬		
	中旬		
	下旬		汚染対策部会講演会
9	上旬		船員労働安全衛生月間広報活動
	中旬		
	下旬		合同委員会
10	上旬		
	中旬		
	下旬		
11	上旬		先進港視察
	中旬		
	下旬		
12	上旬		
	中旬		
	下旬		
1	上旬		
	中旬		
	下旬		
2	上旬		
	中旬		
	下旬		
3	上旬		
	中旬		
	下旬		

※状況に応じ市並びに市議会及び商工会議所とともに要望活動を行う。

このほか、通年でポートセールスを実施し、直江津港振興に関連する各種会議などに参加する。